

創業60周年記念式典が盛大に

オリジナル設計 小泉都立大特任教授が講演

オリジナル設計(管伸社長)は、1962(昭和37)年の創業から60周年を迎えた。このほど、東京・西新宿の京王プラザホテルで記念式典と記念講演が行われた。

開会にあたり「多数の来賓の皆様の出席のもとに、このような素晴らしい会場で式典を開催できたことを、この上なく嬉

しく思う。また、長年にわたり社業にご協力をいただいた当社の役員員に、企画にあたって心掛けた



小泉特任教授



菅社長



オリジナル設計株式会社 創立60周年記念式典

記念講演後に本社社員で記念撮影

こととして、「1つは対面形式で行うこと。コロナ禍でリモートワークが普及したが、対面での意思疎通の場の重要性を再認識している。2点目に、後世に残る式典を開催し、節目の60周年を記憶に残るものにするこ

と。創立50周年は、東日本大震災の翌年となり開催を見送ったので、節目の60周年を記憶に残るものにしたと思った。そして、3点目に、創業者で42年間にわたり社長を務めた名誉会長である、菅脩の功績について紹介したいと考えた」と話し、株式を上場するまでの創業者の苦難や、業績改善に駆け回った自身の経験にも触れ、「企業経営には様々な課題が立ち

べれば、私が感じた苦労など、些細な事かもしれない。名誉会長の功績と、築かれた企業の礎に心から感謝したい」と締めくくった。



(左から)塩路勝久・日本下水道協会顧問、菅社長、曾小川久貴・日本大学客員教授、前田正博・日本大学客員教授

年先までも続く会社となることを願っている」と祝辞を述べた。

式典に先立ち、小泉明・東京都立大学特任教授を迎え、社員向けの記念講演が行われた。小泉特任教授は、水コンサルタント企業を経て、研究者として、水道技術研究センターの管路に特化した産官学共同研究プロジェクトや、水道管内カメフラ調査による管内面の劣化診断評価を通じて、高齢化した水道施設の維持管理に対し、予防保全の観点から社会資本投資を推進していくことの重要性を説いてきた。

最後に、次世代の水道に向けて「とし、これからは、フィードバックからフィードフォワードへの変換と、次世代に責任を持った経営が必要となり、民間企業なくしては成り立たない時代が来る。そこで、上下水道の町医者役割を担うのがコンサルタントであり、皆さんの将来に期待を込めている」と希望を託した。



上下水道事業を主軸に「生活環境の保全に貢献する」を企業理念として、昭和37年（1962年）に創業したオリジナル設計（OEC）は、今年1月で創立60周年の節目を迎えている。コロナ禍で記念祝賀会を控えていたが10月26日、都内

OEC創立60周年 経営強固に一層の飛躍へ



菅社長

のホテルに野村喜一日水コン会長、小泉明東京都立大学特任教授、木股昌俊クボタ会長をはじめ多数の来賓を招き対面形式による記念式典を挙げて社員とともに盛大に祝した。

冒頭、菅伸彦社長は「社長に就任してから来月で11年目に入る。10年前のプロキシファイト（委任状闘争）を経て取締役選任された。引継ぎが何も無い中で就任となった。休む間もなく必死で業績改善に駆け回ったことが今でも記憶に新しい。創業当時から資金

繰りに苦労していたと聞いていたものの、幸い私の時代は資金繰りの心配が無く、創業当時の苦労に比べれば私が感じた苦労など些細なことかも知れない。今では自己資本比率が8割を超え健全な財務体質となっている（要約）と述べ、続けて創業者で42年間にわたり社長を務めた菅脩名督会長の苦労の一端を紹介してあいさつに代えた。

日水コンの野村会長は、「菅脩名督会長とは長い付き合い合いです。ITの走りだった当時、今でいうBIM／CIMの前身となるシステムをすでに完成させていたことを思い出します。また、菅伸彦社長には水コン協関東支部長を務められた功績に敬意を表した。

て、期待に応える見事な仕事をしていた。これから100年先、200年先まで続く企業になることを祈念します」と祝辞を述べて、さらなる発展と出席者のご健勝を祈念、乾杯の発声であいさつに代えた。

この後、高齢のため出席が叶わなかった菅名督会長の創業10周年記念パーティの動画を上映。1970年の「公害国会」当時の追い風を受けて、昭和の空気あふれる時代における役員と社員の様子が映し出されるとともに、米国第40代のロナルド・レーガン大統領に似ていると言われた若き創業者の雄姿に注目が集まると同時に、企業の礎を築いた功績に敬意を表した。